

第3学年*組 国語科学習指導案

指導者 飯塚 公成

1 単元名 古典の世界をショートストーリーで表現しよう 「万葉・古今・新古今」

2 単元の目標

- 古典について関心をもち、進んで読む中で、自分の考えをもとうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 和歌を読んで、人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつことができる。
(読む能力)
- 和歌の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 生徒観

本単元の指導に当たり、実態調査を実施した。以下はその結果である。

【実態調査】

(男子*人 女子*人 計*人 *月*日実施)

- | | | | |
|--|-----------------------|-----------|--|
| 1 「くれなゐの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる」の「春雨」は、どんな様子で降っていますか。 | (複数記述回答) | | |
| ・降っているかどうか分からぬ *人 | ・優しい感じ *人 | | |
| ・しづくだけが掛かっている *人 | ・もう止んでいる *人 | ・分からない *人 | |
| 2 なぜ、そのように感じたのですか。 | | | |
| ・「やはらかに」から *人 | ・「くれなゐ」の鮮やかさが目立つため *人 | | |
| ・薔薇の「芽」だから *人 | ・なんとなく *人 | | |
| 3 「短歌」や「詩」に対する印象は? (理由) | | | |
| ・難しい (すべてが書かれていなかつたら) *人 | | | |
| ・想像が広がる (すべてが書かれていなかつたら) *人 | | | |
| 4 「感想文」と「鑑賞文」の違いを説明しなさい。 | | | |
| ・感想は主觀、鑑賞は客觀 *人 | ・鑑賞は作者の目 *人 | | |
| ・短い文を長い文にすること *人 | ・気持ちを書くこと *人 | | |

本学級の生徒は、落ち着いており、自分の意見をきちんともっている。また、話合い活動も、意欲的に行える。実態調査からも、一つの単語が、単語の意味を越えて、多くの意味やイメージをもつていていることは理解している。また、そのイメージを引き出すために、他の表現を参考に考えることができる。しかし、「感覚」としては分かっているが、その「根拠」を問われると「なんとなく」と答える生徒も少なからずいるし、「感想文」と「鑑賞文」の違いは、7割の生徒が理解している。そこで、文語文に慣れ、古典の世界に親しみをもたせるとともに、韻文に対する苦手意識を減らすことが重要だと考えた。

(2) 教材観

本単元は中学校国語科「C 読むこと」の領域の学習である。指導事項の「エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「ア(イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと」に重点が置かれている。なお、「万葉・古今・新古今」では「古人の生活や社会などを想像して読み、古典の心を今に生かすこと」をねらいとしている。韻文である本教材「万葉・古今・新古今」は、五七五七七の短い言葉の中に、自然や人生、人の心といった豊かなイメージが含まれている。短いからこそ、一語一語、一つの修辞法にも多くの意味が込められている。洗練された作者の言葉や表現を丁寧に読むことで、情景や心情を理解し、昔の人のものの見方や考え方、生き方に触れることができる。一首ごとの内容も、男女の愛情、親子の愛、雄大な自然や人間の美しさ、言葉の裏に見え隠れする作者の心など、変化に富んでいる。そこに表れた考え方や人生観、世界観は、人間本来の真理が暴き出されており、長い年月を経てもなお、現代と共通するものも少なくない。そのため、現代の中学生が読んでも共感できる部分が多く、生徒の古文への興味・関心を喚起でき、自分自身を振り返り、意見をもつのに最適である。

(3) 指導観

本教材の具体的な指導については、まず第一次では、音読を通して古文を繰り返し読み、古文特有の言い回し、特に、和歌のリズムに慣れるようにする。音読学習の仕上げとしては、暗誦を行い、和歌のリズムを体得させるとともに、現代語訳や大意と対応させて読む練習をする。

第二次では、和歌に流れる古人のものの見方や考え方が決して遠い時代のものではなく、現代に通じるものであることを理解させる。また、作者の観たものやそこに生きた人々を想像し、イメージを広げさせたい。そのために教科書と補充プリントを用いて大意を調べ、歌の内容を知った上で、五感を通して鑑賞していく。なぜその語を使い、なぜその五感が強調されているのか、そしてどのような景色が広がっているのかを考えさせる。以上の結果を踏まえ、作者のものの見方や考え方、思いを考えながら和歌のショートストーリーを創ることで、古典を身近なものとして感じができるようとする。

第三次では、ショートストーリーを読み合い、作者のものの見方や考え方を生徒同士で話合い、意見交流させることで、現代へのつながりを感じさせる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度		読む能力			言語についての知識・理解・技能
		関	読	言	
・古典について関心をもち、進んで読む中で、自分の考えをもとうとしている。		・和歌を読んで、人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもっている。			・和歌の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書いている。

5 指導計画（7時間扱い）

次 時	学習活動	評価観点			評価規準
		関	読	言	
一 1	和歌のリズムに注意して三大和歌集を朗詠し、暗誦する。	◎	○		和歌のリズムに注意して朗詠し、暗誦している。
二 2 3 4	「仮名序」を読み、和歌とは何かを知り、三大和歌集への理解を深め、教科書と補充プリントで内容を理解する。		◎		三大和歌集の内容を理解し、五感を使って情景を想像し、古人の生き方や心情などについて考えている。
	⑤ 6 ⑥ 7	◎	○		表現技法や言葉に注目しながら、情景や心情を想像しながら、自分の考えを書いている。
三 7	創ったショートストーリーを交流し、評価する。	◎			交流を通して、表現を基に、人間の生き方について自分の考えをまとめている。

6 本時の指導

(1) 目標

和歌に使われている表現技法や言葉の効果を捉え、情景や心情を想像しながら、自分の考えをまとめることができる。

(2) 本校人権教育の視点との関連性について

小グループでの話合いや意見交換を通して、本校の人権教育の視点「相手の立場を尊重し、思いやりのある生徒を育てる」に迫りたい。

(3) 準備・資料

- ① 100字原稿用紙 ②作業プリント ③短冊状の白紙 ④国語辞典

(4) 展開

学習内容・活動	准・資	指導の手立てと評価（○）
1 和歌の音読と暗誦をする。		・音読と暗誦することで、和歌を身近に感じながら、ものの見方や考え方を捉えやすくなる。
2 本時の学習課題を確認し、見通しをもつ。		・課題を先に提示することで、学習の見通しをもたせる。
心にぐっときた和歌のショートストーリーを作り、紹介しよう。		

- 3 和歌に詠まれている情景や心情を想像する。① 次回は自分が選んだ和歌についてまとめることを伝える。

〈課題和歌〉

春たてば 消ゆる氷の 残りなく 君が心は ()
(我にとけなむ)

『古今和歌集』読み人しらず

〈課題〉
この和歌の最後には、どのような言葉が入ると思いま
すか。またその理由は？

- (1) 和歌を音読する。
- (2) 難語句の確認をする。
- (3) 歌の内容をつかむ。

〈内容把握の視点〉

- ・話者の置かれている状況
は？周りの情景は？
- ・その時の話者の思いは？
- ・強調されている五感は？
- ・人間関係は？

- (4) 課題に基づいて、自分の
考えを書く。(個人)

〈意見作成のポイント〉

- ・自分の考えを明らかにし
ているか。
- ・根拠を明らかにしている
か。(既習内容等)

・大意→立春になると消える氷のように、すっかりあなた
の心が私に打ち解けてほしいことだな

- ・内容を十分に把握できるよう、難語句には、簡単に触
れる。
- ・前時までの「歌を読み解く視点（内容把握の視点）」
を簡単に確認する。
- ・歌の解釈ではなく、内容把握が重要なため、発言が少
ない場合は、「～のように」を付け足すよう助言する。

・恋をしている ・忘れられてしまいそうだ
・春になるから、明るい未来がある
・けんかをしてる ・なにもなくなってしまう
・消えてほしくない

- 4 グループで意見交流し、
気付いたことや考えたこと
を話し合う。(4～5人グ
ループ)

- (1) 自分の考えを発表する。
- (2) この和歌にふさわしい表
現は何であるか、なぜそ
うなのかについて、全員で話
し合う。

〈話合いのポイント〉

- ・自分の考えを述べている
か。
- ・友達の意見をしっかりと
聞くことができているか。
- ・メモをとりながら、話合
いに参加しているか。

- (3) 学級全体に発表する。

- ② ③ ④
- ・4～5人グループでお互いに協力して、円滑な話合い
ができるようにグループ編成する。

- ・自分の考えと根拠を明らかにして交流させる。
- ・感想や意見を述べる際、考えの根拠を述べられるよう
に説明する。
- ・話し合ったことを自分で生かすために、メモをす
るように助言する。
- ・一つの意見にまとめる必要がないことを伝える。
- ・正解を考えるのではなく、一語が歌全体に影響を与
えることを知り、多くの考え方や想像が出てくることに
気付いてほしい。多くの意見が出るように、受容的に
聴くように伝える。

- ・基本的に、グループ順に発表するが、同じような意見
があるグループは、そのたびに黒板に出て、意見の用

		紙を貼り、補足や付け足しをする。														
5 交流を基に、考えた情景と話者の心情を合わせて、ショートストーリーを100字で書く。 (1) 情景・関係・心情・五感の項目でメモを書く。	② ④	<p>• 想像が広がりづらい生徒には、黒板に貼ってある言葉を参考にするように伝える。</p> <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">〈情景・状況〉</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">• 春たてば→ぼんやりとした朝</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">• 消ゆる氷→まだ寒い</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">• 離ればなれ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">〈関係〉</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">• なかなか逢えない二人（待っている女性）</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">• 出会ったばかりの二人</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">• 帰りを待つ夫婦（女性）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">〈心情〉</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">• 残りなく→熱い思い</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">• 仲を深めたい・無事にいてほしい・仲直りをしたい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">〈五感〉</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">• 氷→冷たい（触覚）</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">• 春たてば→ふんわりとした（触覚）</td> </tr> </table>	〈情景・状況〉	• 春たてば→ぼんやりとした朝	• 消ゆる氷→まだ寒い	• 離ればなれ	〈関係〉	• なかなか逢えない二人（待っている女性）	• 出会ったばかりの二人	• 帰りを待つ夫婦（女性）	〈心情〉	• 残りなく→熱い思い	• 仲を深めたい・無事にいてほしい・仲直りをしたい	〈五感〉	• 氷→冷たい（触覚）	• 春たてば→ふんわりとした（触覚）
〈情景・状況〉																
• 春たてば→ぼんやりとした朝																
• 消ゆる氷→まだ寒い																
• 離ればなれ																
〈関係〉																
• なかなか逢えない二人（待っている女性）																
• 出会ったばかりの二人																
• 帰りを待つ夫婦（女性）																
〈心情〉																
• 残りなく→熱い思い																
• 仲を深めたい・無事にいてほしい・仲直りをしたい																
〈五感〉																
• 氷→冷たい（触覚）																
• 春たてば→ふんわりとした（触覚）																
(2) 原稿用紙に書く。 • 歌のどこに着目してそのようなストーリーを考えたのかも書く。	① ② ④	<p>• 書き方のヒントとして、「短歌」学習での「生徒鑑賞文」をまとめたプリントを用意しておく。</p> <p>○ 話合いや意見交換を通して、内容に沿った情景や心情を想像しながら、自分の考えをまとめている。 (読；観察・作業プリント)</p> <p>〈十分満足できる視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • 表現に基に、根拠を挙げながら分かりやすく自分の言葉で書いている。 • より多くの描写を根拠に使って考えている。 <p>• 自分の考えを入れて、しっかりと書いている生徒には、発表をさせる。</p> <p>• 書き出し等で困っている生徒には、発表を聴いて、参考にするように助言する。</p>														
6 次時の学習課題を知る。		• 本時の学習を生かして、自分が選んだ和歌についてのショートストーリーを作り、紹介していくことを伝え、次時へのつながりをもたせる。														

万葉・古今・新古今

◎「心にぐつときた和歌」のショートストーリーを作り、紹介しよう。

▽ この和歌の最後の一句には、どのような言葉が入ると思いますか？

A 課題和歌

世の中に 絶えて桜のなかりせば /

春の心は ()

① 個人で考えよう。※音数・古語にこだわらなくてよい。

『古今和歌集』在原業平

()に入る言葉→

『情景・状況』

『関係』

『五感』

『思い』

【全体的に伝わってくる思い・雰囲気】

② みんなで考えよう。※話し合うことが重要。メモ程度でよい。

みんなで考えたふさわしい言葉→

『情景・状況』

『関係』

『五感』

『思い』

【全体的に】

③ ショートストーリーを書こう。※自分の意見、みんなの考えを参考に。

◎次回→「詠み人知らずの和歌」でショートストーリーを書こう。

万葉・古今・新古今

◎「心にぐつときた和歌」のショートストーリーを作り、紹介しよう。

▽ この和歌の最後の一句には、どのような言葉が入ると思いますか？

A 課題和歌

春たてば 消ゆる氷の 残りなく /

君が心は ()

イ 個人で考えよう。※音数・古語にこだわらなくてよい。根拠があるとよい。

()に入る言葉→

『情景・状況』

『関係』

『五感』

『思い』

「なぜ、その言葉にしたのか。(理由)・全体的に伝わってくる思い・雰囲気」

口 みんなで考えよう。※話し合うことが重要。メモ程度でよい。

みんなで考えたふさわしい言葉↓

『情景・状況』

『関係』

『五感』

『思い』

【全体的に】

○みんなの考え方から、参考にしたい視点

ハ ショートストーリーを書こう。※自分の意見、みんなの考えを参考に。

◎次回→「自分が選んだ和歌」のショートストーリーを書こう。